

病院労組夏季要求交渉

夏季手当は規程どおり (1.925月)、6月30日に支給

諸手当改善についてはいっさい応えず

6月22日(水)、病院労組では6月10日に提出した10項目にわたる「2011年度夏季要求書」について、法人本部と団体交渉を行い、要求の実現を迫りました。

交渉には芝山委員長をはじめ、各病院支部の闘争委員会のメンバー、職場の組合員が参加。法人本部からは白居マネージャーほかが出席しました。

夏季手当については、「給与規程どおり期末手当1・25月、勤勉手当0・675月トータル1・9255月を6月30日に支給したい」と回答しました。オンコール手当については、その必要性に報いるため、国立病院機構をはじめ、全国4府県、府下市立病院においても支給されている実態、また府立病院においてオンコール体制によって拘束されている実態を訴えましたが、「他の特勤手当のように業務実態が手当支給



夏季手当交渉の様子。法人本部と病院労組のメンバーが参加。

に見合うかどうか、まだ見極められない」と要求に答えませんでした。

安心して職務に専念できる制度として、誰でもが主任に任用され、また主査級まで到達できるよう任用制度の改善を求めましたが、法人本部は「昇任については、組織の必要性、勤務成績、能力の実証に基づき、任命権者の責任において行っている」と答えました。

また法人独自の新人事評価制度について、疑問点が整理できない中、7月から試行を強行しようとしています。今回の新人事評価制度では、行動評価や成果に至るプロセスに着眼を置くとしていますが、「評価者がどれだけの被評価者の行動を把握できるのか、病棟の中、被評価者が多く、どれだけ把握できるか疑問」と追及しましたが、「行動評価表に基づいて対応していきたい。また人を育てる精神、スキルアップのためですめていきたい」と回答しました。病院労組では「こ

新人人事評価制度による締め付けや賃金への反映を行わないこと。また拙速にこの制度を導入しないこと」を要求しました。

急性期・総合医療センターで2交代制が試行されていますが、病院労組では2交代制について勤務する看護師の健康面も含め反対であることを表明し、その試行による分析・検証が十分行われない中、本格実施をしないよう要求することも、業務量に見合った人員配置、超過勤務や研究会などを縮減することによって看護師の過密労働を解消することが重要であると追及しました。

病院労組では引き続き要求実現のため、とりくみを強化していきます。

困難な中でも粘り強くたたかえば要求は実現する 府職労女性部運動に誇りがんばろう

第57回大阪府職員労働組合女性部定期大会 & 第6回大阪府関係職員労働組合女性部定期大会

第57回大阪府職員労働組合女性部定期大会及び第6回大阪府関係職員労働組合女性部定期大会が、6月23日午後、エルおおさかで行われました。

経過報告、運動方針あわせて、9人から発言がありました。

保育特休の復活、小1までの延長を(保健所支部)、メンタルヘルス対策の充実、母性保護の重要性、府営住宅を巡るとりくみ、8月6日のYA9への

参加呼びかけ(土建支部)、1日のさらなる時短、過密労働による現職死亡が増えている、働きやすい職場に(府税支部)、組合行事への参加がその後につながっている、障がいのある組合員には、組合活動したいができない人もいる、配慮が必要(土現支部)、子どもの看護休暇を療養・リハビリにも使えるように、メンタルヘルスについても、中間管理職が物言えない大変な職場になり

いて、自治体と公務員の果たす役割の重要性が見直されているが、各地で自治体病院の統廃合、独法化などが相次ぎ、地域医療の崩壊が広がっている。府立5病院も独法化されて6年、法人は黒字を確保しているが、業務量に見合った人員配置がされておらず、みな疲れきっている。

また、欠員状態も続き、辞めたいと思っ



第57回大阪府職員労働組合女性部定期大会と第6回大阪府関係職員労働組合女性部定期大会の様子。

る。組織拡大では、土日の病棟回りを続ける中、加入に結びついている。目に見える組合活動をめざし、毎週1回の玄関前朝ヒラを20年近くやり続けてい

るのセンター支部の誇り。今後も身近な組合活動めざしてがんばっていき



津波の到達地点(電柱が倒れたまま)

泥の清掃・後片付け・水路づくり… いろんな人と出会い、ともに働いた6日間

自治労連 東日本大震災ボランティア



ヒマワリの種をまいた田

府職労が加盟する自治労連では、岩手県陸前高田市に東日本大震災への「岩手県支援センター」を設置し、全国からボランティアを募集していき

ます。

さっそく応募し、5月22日から27日まで参加しました。寝袋・ヘルメット・ヘッドライト・長靴・軍手・ウェットティッシュなどリュックに詰め込み、東北新幹線・一ノ関駅に向かいました。

そこから東へ向かうのですが、IR大船渡線は、一ノ関・気仙沼間は運行していませんが、その先は不通。臨

時バスが1日2本運行されています。18時20分のバスで約2時間、宿舎の陸前高田市矢作(やばぎ)温泉鈴木旅館に到着しました。

翌23日(月)から作業開始。1日目は〇さん家の敷地の泥の清掃、2日目は△さん家の蔵の跡片付けといった具合。矢作地区は、気仙川を約7km遡ってきた津波に襲われたところで、津波の到達地点です。被害のなかった所は田植えが始まり、被害のあった方は、米作は無理なので、地元の見地で6月4・5日に、ヒマワリとトウモロコシの種をまくことになりました。23日午後はそのための水路造りをしました。

宿舎では、高知県から4人、岡山県2人、堺市職労2人、枚方市職労2人など知り合いになりました。関東方面から車のグループ参加が多く、私は、3日目の夕方、品川区職労の3人と同乗してもらい、大船渡市や陸前高田市街地を訪れました。惨状はテレビや新聞では見ていたもの、360度その中に立つと、とても口で言い尽くせるものではありません。

4日半の作業を終えて、27日(金)午後、帰路に着きました。一ノ関のバス停で、地震の時、陸前高田市役所に居た人と出会いました。60歳くらいのその男性は、「市役所の4階に駆け上がった。もう少し遅れていたら津波に飲み込まれていただろう」と、その時撮った写真を見せてくれました。海の上に立っているのしか見えない写真は、市役所の4階から撮ったものだそうです。

いろいろな人と出会いがあり、ともに働くことのできた6日間でした。(住宅経営室 稲内一夫)